令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　26

事務事業名称		道路施設等維持管理事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　土木部		課:　道路河川補修課		区分	持続的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	1.安全で、利便性の高いまち				細区分	維持管理区分	
	総合計画 施策目標	1.災害に対する備えができているまち				性質	交通・都市基盤	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　2012(H24)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	社会資本整備重点計画法						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	・道路を安全・安心に通行できることで、人の交流や物流が円滑に進んでいる。 ・防災力が向上し、被害の発生、避難経路の確保ができる、安心、安全につながる。						
	対象者(受益者)	市道施設を利用する市民及び準用河川沿線に住む住民すべて/市道施設を利用する事業者及び準用河川沿線で事業を行う事業者すべて						
	現状・課題	道路を通行する利用者が円滑かつ安全に通行できないと交流及び物流が滞る。 河川が保全されていないと、大雨時に河川氾濫や、流水機能が妨げられることにより被害が発生する。また、避難の妨げになるため、不安が募る。						
	事業の概要	・インフラ施設である道路及び河川について、市直営作業員や業者発注により適切に維持し、安心的かつ安定的に提供し続ける。						
	年間の主な事務	・職員による道路パトロールや道路利用者からの通報により発生する補修箇所の把握及び、情報提供者への対応説明 ・補修等の必要箇所について、緊急度合いや重要性・規模を考慮し、直営による迅速な緊急対応や業者発注よる対応 ・街路樹等の除草・剪定作業委託事業 ・歩道や車道の通行を阻害する支障木等について、直営による迅速な緊急対応や業者発注よる対応 ・準用河川を主として、除草及び清掃作業、補修工事等の直営及び業者発注による保全活動 ・市駅前等に設置されているエレベーター・エスカレーター施設や牧野長尾線等アンダーパスに設置の排水ポンプ施設等について、直営による日常点検・降雨前点検・清掃及び監視業務委託による管理						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	23.65人	23.23人	—	—
再任用	0.00人	1.00人	—	—
任期付職員	0.23人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.24人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	182,973	195,995	—	—		
		会計年度任用職員	0	511	—	—		
		特別職非常勤	0	0	—	—		
		附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計		182,973	196,506	—	—		
	物件費計		634,316	605,200	—	—	666,143	90.9%
歳出計			817,289	801,706	—	—		
歳入	国庫支出金		0	11,700	—	—	25,200	
	府支出金		0	0	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		489,306	499,029	—	—	508,784	
	市債		0	0	—	—	—	
	その他		5,400	8,808	—	—	8,807	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			494,706	519,537	—	—	542,791	
一般財源(物件費充当分のみ)			139,610	85,663	—	—	123,352	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① パトロールや道路利用者等からの要望により、補修箇所を把握し、補修・改良および準用河川等の各種保全活動をする。	件	2,880 件	2,507 件	— 件	— 件
② 街路灯のLED化を行う。	個	40 個	50 個	— 個	— 個

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)

ロジックモデル

アウトプット①

説明	道路施設及び準用河川等が適切に維持管理できている。					
指標	要望に対する対応率					
		R6	R7	R8	R9	単位
	目標	100	100	100	100	%
	実績	97.13	96.09	—	—	%
	算出方法	対応完了数/受付伝票×100				

ロジックモデル

アウトプット②

説明	LED化により、街路灯の電気代が上がらない。					
指標	切れた街路灯の電球をLEDに交換した割合。					
		R6	R7	R8	R9	単位
	目標	100	100	100	100	%
	実績	100	100	—	—	%
	算出方法	LEDに交換した基数/街路灯の切れた電球の基数×100				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	—					
指標	—					
		R6	R7	R8	R9	単位
	目標	—	—	—	—	—
	実績	—		—	—	—
	算出方法	—				

アウトカム②

説明	—					
指標	—					
		R6	R7	R8	R9	単位
	目標	—	—	—	—	—
	実績	—		—	—	—
	算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

・道路を安全・安心に通行できることで、人の交流や物流が円滑に進んでいる。
・防災力が向上し、被害の発生を軽減させ、避難経路の確保によって安心・安全につながる。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	令和6年度は、道路施設に関し、市民・自治会等からの通報、要望や道路パトロール(職員)に基づく対応を2,880件行った。維持管理、修繕等に要する経費は年々増加傾向にあり、限られた予算の中で優先順位を立てて予算執行している。市民の安全に直結する道路の陥没や穴ぼこなどの緊急対応、災害時の対応を直営で行い、大規模な補修や広範囲な除草について発注業務を行った。街路灯のLED化については、40個行った。
R7年度	令和7年度は、道路施設に関し、市民・自治会等からの通報、要望や道路パトロール(職員)に基づく対応を2,507件行った。維持管理、修繕等に要する経費は年々増加傾向にあり、限られた予算の中で優先順位を立てて予算執行している。市民の安全に直結する道路の陥没や穴ぼこなどの緊急対応、災害時の対応を直営で行い、大規模な補修や広範囲な除草について発注業務を行った。街路灯のLED化については、50個行った。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	市民が安全で安心して利用できるよう、道路施設の維持管理を適切に行っていく。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　27

事務事業名称		準用河川等維持管理事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　土木部		課:　道路河川補修課		区分	持続的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	1.安全で、利便性の高いまち				細区分	維持管理区分	
	総合計画 施策目標	1.災害に対する備えができているまち				性質	交通・都市基盤	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度 —	R7年度 —	R8年度	R9年度
	事業期間	事業開始：　不明		～		事業終了予定：　未定(継続実施含む)		
	根拠法令等	社会資本整備重点計画法						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし				補助金性質:　—		
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	防災力が向上し、被害の発生、避難経路の確保ができる、安心、安全につながる。						
	対象者(受益者)	準用河川沿線に住む住民すべて/準用河川沿線で事業を行う事業者すべて						
	現状・課題	河川が保全されていないと、大雨時に河川氾濫や、流水機能が妨げられることにより被害が発生する。また、避難の妨げになるため、不安が募る.						
	事業の概要	準用河川を主として、適正な維持管理のために除草および清掃作業を行うとともに、補修工事等を行うもの。						
	年間の主な事務	・直営作業員による保全活動 ・準用河川等の除草委託 ・準用河川等の清掃委託 ・準用河川の補修工事 ・急傾斜等の除草委託 ・一般河川の維持管理(分任分)						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.60人	0.60人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出 内訳 正職員、再任用、任期付職員	4,613	4,925	—	—		
歳出 内訳 会計年度任用職員	0	0	—	—		
歳出 内訳 特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳 附属機関委員	0	0	—	—		
歳出 人件費計	4,613	4,925	—	—		
歳出 物件費計	33,574	34,251	—	—	34,400	99.6%
歳出計	38,187	39,176	—	—		
歳入 国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入 府支出金	0	0	—	—	0	
歳入 受益者負担(使用料・手数料)	0	1,082	—	—	1,073	
歳入 市債	0	0	—	—	0	
歳入 その他	0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)	0	1,082	—	—	1,073	
一般財源(物件費充当分のみ)	33,574	33,169	—	—	33,327	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 準用河川等の各種保全活動を行う。【除草・清掃にかかる委託・工事等】	回	7 回	7 回	― 回	― 回

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明	準用河川等が適切に維持管理できている。
指標	各種保全活動に係る当初予算額に対する決算額の割合。

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	100	100	100	100	%
実績	96.47	99.56	―	―	%
算出方法	決算額/当初予算額×100				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	―
指標	―

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	―	―	―	―	―
実績	―		―	―	―
算出方法	―				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

・準用河川の保全を実施することによって、防災力が向上し、被害の発生を軽減させ、安心・安全につながる。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	R6年度は、委託として八田川他除草委託他5件、護岸施設緊急工事2件を実施した。 本事業は、各種委託契約を行い、併せて護岸施設緊急工事を行ったため、R6年度の予算執行率は96.5%となった。
R7年度	R7年度は、委託として八田川他除草委託他5件、清掃1件を実施した。 本事業は、各種委託契約を行い、併せて工事、修繕を行ったため、R7年度の予算執行率は99. 56%となった。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	引き続き、準用河川の機能確保のため、年間除草委託及び緊急時の工事対応等ができるように進めていく。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	―	―

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　28

事務事業名称		舗装長寿命計画事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　土木部		課:　道路河川補修課		区分	行政運営事業	
基本項目	総合計画 基本目標	1.安全で、利便性の高いまち				細区分	行政運営区分	
	総合計画 施策目標	1.災害に対する備えができているまち				性質	交通・都市基盤	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度 —	R7年度 —	R8年度	R9年度
	事業期間	事業開始：　2018(H30)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	決裁						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	ライフサイクルを見据えた管理が確立されることにより、市民負担が軽減、平準化されると共に、道路を安全・安心に通行できることで、人の交流や、物流が円滑に進んでいる。						
	対象者(受益者)	幹線道路を利用する市民すべて。/幹線道路を利用する事業者すべて。						
	現状・課題	事後保全型の補修では、予想外の財政負担が発生することになり、市民負担の増加、補修作業の遅滞につながる。/道路を通行する利用者が円滑かつ安全に通行できないと人の交流及び物流が滞る。						
	事業の概要	道路の大規模修繕、改築までのライフサイクルを延長し、コストの平準化を図るため、平成30年度に策定した舗装長寿命化修繕計画に基づき、5年毎に計画更新を行い、舗装の損傷状況に応じた工法により予防保全型の修繕を行う。また計画対象路線について拡充を図り、予防保全型補修の推進を図る。						
	年間の主な事務	道路舗装補修工事発注 実施詳細設計業務委託発注 路面性状調査委託発注						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.46人	0.46人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	3,536	3,776	—	—		
		会計年度任用職員	0	0	—	—		
		特別職非常勤	0	0	—	—		
		附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計		3,536	3,776	—	—		
	物件費計		207,759	207,353	—	—	217,480	95.3%
歳出計			211,295	211,129	—	—		
歳入	国庫支出金		0	0	—	—	0	
	府支出金		0	0	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	0	—	—	0	
	市債		186,900	182,100	—	—	0	
	その他		19,777	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			206,677	182,100	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			1,082	25,253	—	—	217,480	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 「舗装長寿命化計画」に基づき、舗装補修を行う。	m	3,334 m	3,813 m	— m	— m

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明	—
指標	—

	R6	R7	R8	R9	単位
目標					—
実績					—
算出方法	—				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	—
指標	—

	R6	R7	R8	R9	単位
目標					—
実績					—
算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

・ライフサイクルを見据えた管理が確立されたことにより、市民負担が軽減、平準化されると共に、道路を安全・安心に通行できることで、人の交流や、物流が円滑に進んでいる。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	損傷による事故の未然防止を図る予防保全型の計画である舗装長寿命化計画に基づき、計画的に修繕工事を実施している。R6年度は、渚禁野線他7路線(施工延長3,334m)の工事を実施した。また「枚方市舗装長寿命化修繕計画」の更新を行い、対象路線を28 路線から66路線に拡充を行った。舗装長寿命化修繕計画を策定することで、ライフサイクルコストの逓減や予算の平準化を図ることが見込まれるが、定常的な財政負担は継続していく。
R7年度	損傷による事故の未然防止を図る予防保全型の計画である舗装長寿命化計画に基づき、計画的に修繕工事を実施している。R7年度は枚方藤阪第2号線他11路線(施工延長3,813m)の工事を実施した。舗装長寿命化修繕計画を策定することで、ライフサイクルコストの逓減や予算の平準化を図ることが見込まれるが、定常的な財政負担は継続していく。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	引き続き、持続的に安全安心な道路通行空間を確保するため、予防保全型補修により、さらなる事故予防と長期的な維持管理コストの縮減に取り組みます。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	拡充	**現状維持**	**現状維持**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　947

事務事業名称		道路河川補修課運営事務						
担当部署(R8年度機構)		部:　土木部		課:　道路河川補修課		区分	行政運営事業	
基本項目	総合計画 基本目標	9.施策体系外				細区分	行政運営区分	
	総合計画 施策目標	99.施策体系外				性質	内部事務・行政運営	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　不明　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	決裁						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	課の運営が円滑な状態にある。						
	対象者(受益者)	職員						
	現状・課題	課の運営を円滑に図る必要がある。						
	事業の概要	維持補修課の事務事業が効率的に執行されるよう室内の連絡調整を図る。また、庶務事務や道路補修に関する市民等の通報受付を適切に行う。						
	年間の主な事務	①連絡調整事務 予算・決算、各種照会・回答等について、室内の連絡調整及び執行管理 ②庶務事務 在籍職員の出退勤、休暇申請等の管理・報告、会計年度任用職員の報酬関係の報告等 ③受付事務 道路補修に関する市民等の通報・要望等の受付、伝票作成(災害情報システム)、進捗確認						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.29人	0.29人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.17人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.21人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	3,081	2,381	—	—		
		会計年度任用職員	0	496	—	—		
		特別職非常勤	0	0	—	—		
		附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計		3,081	2,877	—	—		
	物件費計		8,464	8,744	—	—	9,258	94.4%
歳出計			11,545	11,621	—	—		
歳入	国庫支出金		0	0	—	—	0	
	府支出金		0	0	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	0	—	—	0	
	市債		0	0	—	—	0	
	その他		0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			8,464	8,744	—	—	9,258	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① ―					

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

ロジックモデル

アウトプット（活動が産み出した結果）

アウトプット①

説明：―

指標：―

	R6	R7	R8	R9	単位
目標					―
実績					―
算出方法	―				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明：―

指標：―

	R6	R7	R8	R9	単位
目標					―
実績					―
算出方法	―				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

課の運営が円滑な状況にある。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	予算・決算、各種照会・回答など道路河川管理課との連絡調整及び執行管理、課在籍職員の出退勤、休暇申請等の管理・報告などの庶務事務全般と、道路河川補修課特有の事務である道路補修に関する市民等の通報・要望等に対応を要する業務となっている。通報・要望等については、災害情報システムを活用し補修伝票整理・把握を行い、対応処置については直営と業者発注により行っている。
R7年度	予算・決算、各種照会・回答など道路河川管理課との連絡調整及び執行管理、課在籍職員の出退勤、休暇申請等の管理・報告などの庶務事務全般と、道路河川補修課特有の事務である道路補修に関する市民等の通報・要望等に対応を要する業務となっている。通報・要望等については、災害情報システムを活用し補修伝票整理・把握を行い、対応処置については直営と業者発注により行っている。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度取組方針	道路補修課の事務事業について、道路河川管理課と連携を図りながら、円滑で効率的な運営を進めていく。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	―	―